

(別紙の2)

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を掲示し、朝・夕の申し送りの時、読み上げている。	理念を玄関や事務室に掲示し、来訪者にも分かり易くしている。朝夕の申し送り時に理念を復唱することで意識し日々のケアに取り組んでいる。管理者はケアを通して理念を具体的な内容で説明している。職員は理念を共有し、利用者と会話する際に言葉づかいに注意し丁寧語で話すようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域ケア会議などで、他の施設や事業所と密に連絡をとっている。	区費を納め地域の清掃活動や河川掃除等に職員が参加している。歌や楽器演奏、読み聞かせなど、地域のボランティアが訪れている。小布施くりこ祭りには駅前の方台に出かけ楽しんでいる。8月にはボランティアを交えてホームの夏祭りを予定しており、手作りの法被を準備したりお神輿を作成中である。春にはホーム庭の立派な枝垂れ桜をライトアップし期間中多くの住民が訪れ、秋には畑の栗を家族や隣近所にお裾分けし喜ばれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自由にホームに訪問して頂けるようにし、利用者と実際に接して頂き、理解や支援方法を知って頂くよう働きかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、ターミナルケアや事例検討等で、実際に利用者に対する対応などを発表したり意見を求めたりしている。	運営推進会議は家族代表、住民代表(1~2名)、区長、民児協会長、在宅介護支援センター職員、役場職員をメンバーに開催している。5月の会議ではホームから利用状況や活動を報告し、運営推進会議の運営の仕方や事例検討など、有意義な話し合いが行われた。8月以降は議題を決めて2カ月ごとに行う予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の住民のホームへの立ち寄り、入居に関して積極的な働きかけ町あるいは地域密着の他、市町村の必要など、情報収集に努めている。	町の担当職員は配布物や用事があれば時々立寄り声をかけてくれており、何かあれば親身になって対応していただける。毎月役場主催の地域ケア会議があり、町内の事業所の責任者、ケアマネージャー、在宅介護支援センター職員、小布施町・須坂市の担当職員が参加し情報交換や勉強会を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修にて学んで、日々のケアに生かすよう努力している。夜間のみ防犯のため、玄関は施錠しているが、日中は施錠していない。	管理者は全体会議で拘束をしないケアの大切さを具体的に説明している。身体拘束の内容や弊害について、また、利用者の行動を制限する行為については職員全員が理解し、拘束のないケアの実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内研修にて学び、実践に努めている。		

ヒューマンヘリテージ小布施

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、資料回覧し、研修している。一人の利用者が成年後見制度を利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者の退去、新規利用者の受け入れの際、説明や話し合いにより、安心して利用できるようにした。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	一人ひとりの利用者とコミュニケーションをとり、率直に気持ちを表現して頂き傾聴に努め、すぐに要求に応じる努力をしている。家族からの意見・要望にもすぐに対応できるよう努めている。	殆どの利用者は自分の思いや希望を伝えることが出来る。職員は意向を確認しその意向に応じている。家族の面会は週2～3回、遠方の方でも月1回は来訪している。意見箱は有るが活用されたことはなく、家族は来訪時などに直接口頭で伝えている。出された意見・要望は運営に活かしている。職員の異動はホーム便りで紹介している。また、家族が来訪した時には職員自ら「新しく職員になりました〇〇です」と挨拶している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々、職員と良いコミュニケーションをはかり、自由に職員の意見が言えたり、提案を取り入れ働きやすい環境作りに配慮している。	職員の全体会議が毎月開催されるようになり議題はその都度、皆で話し合い決めている。利用者の状況確認、職員間の業務分担の調整など運営に関する大事なことを報告したり検討することもある。管理者と職員との信頼関係も厚く、職員間の意思疎通も図られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理職や職員の要望にできるだけ答えて下さる誠実さがあり、率直に話し合いさせていた		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修受講者は、研修内容を回覧し、全職員で共有化を図っている。また、代表者もスタッフ全体の各時期に、必要だと思われる研修を与えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議や、ホームに訪問していただくなど、同業者と交流し、互いの情報交換をし、ネットワーク内で研修、交流会にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人がリラックスして安心して、自分らしく過ごして頂けるよう、本人の言葉に傾聴し、動作や表情から心情を察し、素早く対応できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とともに何度か訪問して頂いたり、職員が自宅に訪問し、お話を伺って、できるだけ要望に沿えるよう努め、何でも自由に話せる良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅のケアマネと十分に連絡をとり、情報収集に努め、引き続きケアを継続し、まず必要な支援を充分に行えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者が感謝の言葉やねぎらいの気持ちを職員に伝えたり、家族の一員のような暖かい馴染みの関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日々の生活の様子、体調の変化の際は、その都度お知らせしている。また、行事の写真など、面会の際などに見ていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日々の会話やレクリエーション、歌を歌う際、回想法執行時、馴染みの人や場所を思い起こして懐かしんで頂いている。また、利用者の友人の面会もある。	面会者は利用者の居室や共有スペースで話したりお茶を楽しんでいる。家族と外出して美容院に行く方や食事・買い物に出かける方もいる。お盆やお正月には自宅に帰られる方もいる。利用前には町の名所・岩松院が散歩コースだった方もおり、皆で同じコースを巡っている。ホームにいるからといって共同生活に縛られるのではないことを利用者や家族に伝え、利用前からの人や場所との継続性にも理解をいただくように話をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホーム内での作業やレクリエーション、その他の交流時なるべく一つのテーブルで、皆が顔を合わせて楽しめるよう工夫している。		

ヒューマンヘリテージ小布施

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や、家族の都合による退所があったが、退所した利用者の相談やアドバイスなどに努め、入院した利用者が亡くなった際、家族から何度も暖かい感謝のお電話やお言葉を頂けた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の口にする言葉に耳を傾け、その中から本人の意向を汲み取る努力をしている。	思いや意向については全利用者が言葉や表情で伝えることが出来る。職員は日々利用者と一緒に暮らしながら意向や思いの把握に取り組んでいる。利用者からの外出や食事など日々の要望はその日の予定を変更してでも、即、対応に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、入居者の基礎情報を家族から聞き取り、作成し、より本人の希望を叶えられるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心情の変化、通常と違う言動をした際は、連絡ノートに記入し、職員全員で把握できるように申し送りでも伝え、分析し、ふさわしい対応ですぐに応じられるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員皆でアセスメントシートを作り、そのアセスメントシートや個人情報をもとにケアプランを作成している。入居者全員のケアプランをファイルにしてあり、すぐに見て対応できるようにしている。	介護計画は全職員で話し合い作り上げている。職員からは介護計画の作成に参加するようになって利用者一人ひとりの目標が解るようになり、また、身近に感じながら支援できるようになったとの話も伺えた。評価見直しの結果、現状に合わない計画の場合には新たなものに作り変えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録に事実の観察項目や言動を記入し、実際に対応した内容と得た情報を記入している。また、日々の変化等は連絡ノートに記入し、職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	役所の手続き代行、病院への付き添い等を行っている。理容院への出張依頼や入院している利用者家族への面会の付き添いも行った。		

ヒューマンヘリテージ小布施

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小布施社協にボランティア団体として登録されており、ボランティアや町の行事を通じ地域との交流を深めている。7月は小布施マラソンの応援、8月はサマチャレのボランティアが来所する予定になっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	高齢化に伴い受診する機会が増し、家族では、対応できない場合が多く、職員がゆだねられ受診の付き添いや主治医との連携を密にとっている。	利用開始時に家族の希望でかかりつけ医を協力医に変更した利用者もいる。看取り対応の場合は毎日往診があるが、通常は通院している。緊急入院が必要な場合には家族に連絡し、協力医が紹介状を書き、ホームは本人の緊急情報ファイルをもって協力医指定の医療機関で受診するなど適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員としては看護師はおらず、主治医や契約している医院の看護師と連携をとり、受診や往診を依頼している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今年、入院した利用者が2名おり、職員が度々お見舞いに訪問したり、ドクターからの説明を家族と一緒に受けたりし、安心して入院できるように努めた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の対応は、それぞれの家族や主治医との相談の上、決定している。その際、家族に十分に説明し、納得して頂けるよう努めている。現在1名ターミナルケア中。	今まで4件の看取りが行われている。利用開始時に終末期に関する指針と重度化した場合における対応に関わる指針を説明し同意書を交わしている。終末期を迎えた本人や家族が安心して悔いのない最期を迎えられるように主治医や職員は方針を共有し支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルがあり、すぐに取り出せ見られるようになっている。また、全体会議でもターミナルケアや緊急時の対応など学んでいる。実際に急変や事故発生時の対応で、すぐに医療機関と連携が取れた。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者立ち合いで、職員による避難訓練を行った。	防火管理者が消防訓練実施計画書を消防署に提出し昼間想定通報、避難、消火器の各訓練を行っている。車椅子や独歩困難な利用者も避難訓練に参加している。次回は夜間想定訓練を予定している。7月の長野県北部地震の時には皆で決めた屋内の安全な場所(2階部分がない1階の居間)に集まり利用者を勇気づけていた。非常時持ち出しのリュックが2つ玄関に用意されており、食料品や介護用品については3日程度の備蓄がある。	

ヒューマンヘリテージ小布施

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに優しく豊かな接し方、敬語を使い会話している。利用契約書にも個人情報の取り扱い項目があり、説明している。また、外部からのお客様を受け入れることも家族に承諾を得ている。	苗字や名前に「さん」をつけて呼んでいる。言葉遣いには気を付けており、丁寧語で会話することを徹底している。人生の先輩として尊重し、誇りやプライバシーを損ねない支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意見や希望を否定せず最後まで、傾聴している。苦情や不満など表現しにくい事も日頃から良いコミュニケーションをとり、言いやすい関係作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のスケジュールは、おおよそ決まっているが、一人ひとりの体調、希望に沿い、食事時間メニュー、1日の行動スケジュールを柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1日中、パジャマでいることのないよう、日中は更衣して頂いている。また、体調不良などで、やむを得ず日中パジャマでいる場合は、家族に承諾を得ている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者が、色々な役割を持ち、食事の準備や配膳、盛り付けするなどして参加している。参加できない方も、食事の準備を見て楽しみにしている。	利用者はそれぞれ出来る範囲でお手伝いに参加している。女性利用者は男の人(男性職員も含め)にやらせては申し訳ないと手伝っていると伺った。献立はあるもので作ったり献立を決めてから作ったりと色々あるが、栄養や食材のバランスに配慮し喜んでいただけの献立にしている。職員は利用者と同じテーブルについて介助しながら共に食事をとっていた。食事は時間をかけてゆっくりと楽しませている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考えた献立と、食欲低下や充分栄養を取り入れられない方については、食事量・水分量をチェックし、摂取しやすいように刻み食、ミキサー食、好きな食品など提供し、補うよう調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持に努め、口腔内のトラブルの有無をチェックし、適したケアができるよう、スタッフ間で情報を共有している。必要時、家族に連絡した後、歯科受診している。		

ヒューマンヘリテージ小布施

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	気持ち良く排泄できるよう、定期的にトイレ誘導し、ゆとりある仕方です尿を待つよう支援している。オムツの使用を減らすため、排泄状態に合わせた、オムツの選択と当て方の工夫をしている。	職員が定期的に声がけトイレ誘導を行っている。リハビリパンツを使用し、また、パットを併用している方もいる。パットは昼間用、夜間用と使い分けてオムツの使用を減らそうと工夫している。利用後にオムツからリハビリパンツに変わった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各自の排泄パターンに合わせ、水分の調整、下剤坐薬の使用調整や、乳製品を毎日飲用するようにしている。また、運動不足解消に軽体操、レクを実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	各自、定期的に入浴し、汚染時や皮膚のトラブルがある方は、なるべく頻繁に入浴するように配慮している。	週2回以上、一日に4人ずつ入浴している。入浴日でもなくても利用者から希望があればその都度、また、希望する時間帯に入浴出来るように支援している。三方向から介助が出来る浴槽なので利用者にとっては入りやすく、職員にとっても複数での介助がしやすい。季節の菖蒲湯、柚子湯、入浴剤を使い香りや色の変化を楽しんでいただいている。入浴を拒む利用者はいまのところいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの希望や、スタッフが観察して休息が必要と思われる時は、ホールのフロアに長座布団を敷いてあり、いつでも休める。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のファイルがあり、職員全員が閲覧できるようになっている。症状の変化があった場合、薬の担当者がドクターと相談の上、処方してもらっている。薬が変わった場合、連絡ノートに記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の手伝いや片付け他、日々の生活の中で、必要な仕事の手伝い、秋には栗拾いや庭掃除、草取りなど各自できる範囲で行っている。日々のレクリエーションを行ったり、外出支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、時々散歩に出掛けたり外食もされている。また、出掛けた時の写真を家族に見ていただいている。時々、家族と外食に出掛ける利用者もいる。	日常的には隣接するお寺の境内まで散歩に出掛けている。行事外出は千曲川堤防の花見、繁華街の七夕、ハイウェイオアシス、近くの温泉地での足湯、隣市のバラ園など数班(数日間)に分かれて出かけている。ホーム内に掲示された外出時の写真を見て家族からは「私達に出来ないことをしていただきありがとうございます」と喜ばれている。家族と一緒に外食や買い物を楽しむ利用者もいる。	

ヒューマンヘリテージ小布施

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこづかいは、職員が管理しているが、現在一人の方は、少額のおこづかいを自分で持っており、お出かけや買い物の時など、自分で支払う事がある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「家の人と話したい」と訴える方には、事務所から電話をかけ、家族とゆっくり話をさせていただいている。また、暑中見舞いや年賀状を一人ひとりが一言書いて家族に出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコンもあり、適度な温度・湿度管理をしている。リビングも落ち着いた感じになっており、壁には季節を感じさせる貼り絵や写真を飾っている。	台所、食堂、居間(絨毯敷き)は広くゆったりとしている。観葉植物が置かれ、壁には誕生会の写真や外出時の写真、アヤマのはり絵が飾られている。天井には天の川をはさみ離れて吊るされた彦星と織姫が飾られていた。利用者が昼寝をしながら天井を見て子供の頃を思い出すのではと思うほど室内装飾が上手に出来ていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1つのテーブルを囲み、楽しく会話やテレビを見たり、レクリエーションを楽しんでいる。また、休みたい人は、ホールの長座布団で横になって休んだりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはトイレ、洗面所が設置されている。また、入居前までの生活用品が持ち込まれ、その人らしい居室となっている。温湿度計も設置してあり、加湿器も置いている。	居室は広く収納場所も充分ある。テレビが置かれ、使い慣れた机の上に本が置かれた居室も見受けられた。家族の写真が飾られたり、亡くなられた御主人の写真も置かれたりと、それぞれ本人にとっては思い出深いものが持ち込まれている。温湿度計や加湿器もあり健康に気配りされた居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	台所用品の片付けができるよう、引き出しにネームを付けている。また、洗濯物をたたんでいただいたり毎日の仕事にできるかぎり携わって頂いている。		